

税金はなぜ必要なのか

三條市立第二中学校 三年 五十嵐 いからし 麻友 まゆ

税金は、国や地方自治体が社会を運営するために、国民や企業から集めるお金のことです。例えば、お店でものを買ったときに払う消費税や、働いて得た給料や利益にかかる所得税、地域の行政サービスを支えるために払う住民税などがあります。税金の使い道は、みんなで暮らしやすい環境をつくるための公共サービスの運用に使われます。私は、税金は単なる義務ではなく、社会を良くするための大切な仕組みだと考えています。

税金は、ただ取られるだけものではありません。私たちが学校で勉強ができるのも、教科書や校舎の整備に税金が使われているからです。黒板や机、冷暖房設備など、当たり前に使っているものの多くは税金によって整えられています。他にも道路や橋の整備、消防や警察の活動、お年寄りのための介護や年金など、税金は生活のあらゆる面を支えています。また、地震や大雨などの災害が起きた時、復興や被災地への支援にも税金が役立っています。

私が小さい頃に家族が倒れて救急車を呼んだことがあります。サイレンの音が近づくのを不安な気持ちで待っていました。すぐに駆けつけてくれた救急隊員の姿を見て、とても安心したのを覚えています。救急車の運用や医療現場の整備も税金で賄われています。私たちの生活は目に見えないところでも税金によって守

られているのだと実感した出来事でした。このように、税金が使われている場所は意外と身近にもあります。図書館や公園の維持管理、上下水道の管理などもその一つです。夜道を安心して歩けるのも、きれいな水を安全に飲めるのも、税金が正しく使われているおかげです。もし税金がなければ、学校や病院、道路などの公共サービスは十分に整えられず、多くの人が困ってしまいます。税金は、みんなで支え合い、より良い社会をつくるための方法なのです。

まとめると、税金は私たちの生活と未来を支える土台であり、形として目に見えるものだけではなく、安心や安全といった目に見えない部分も支えてくれています。一人一人が税金の大切さを理解し、無駄なく使われるように見守ることが、これからの社会をより良くする第一歩だと思います。私は将来、働いて税金を納める立場になります。その時、「もったいない。」と感じるのではなく、「誰かの役に立っている。」と思えるようになりたいです。そのためには、税金がどのように使われているのかを知ろうとする意識を持たなければいけません。ニュースや学校での学びを通して自分なりに関心を持ち続けたいと思います。そして、自分が納めた税金がどのように社会を支えているのかを理解し、より良い使われ方を考えられる大人になりたいです。